

☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1976年  
10月15日  
第306号  
編集発行人 高木一夫  
一部 150円

# 烽火

NOROSHI

**共産主義者同盟（全国委員会）**

大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄川崎町  
3の24 とみやビル15号  
TEL (06) 371-3706

朝鮮侵略反革命を内戦に転化せよ！

# 天皇50年式典粉碎？

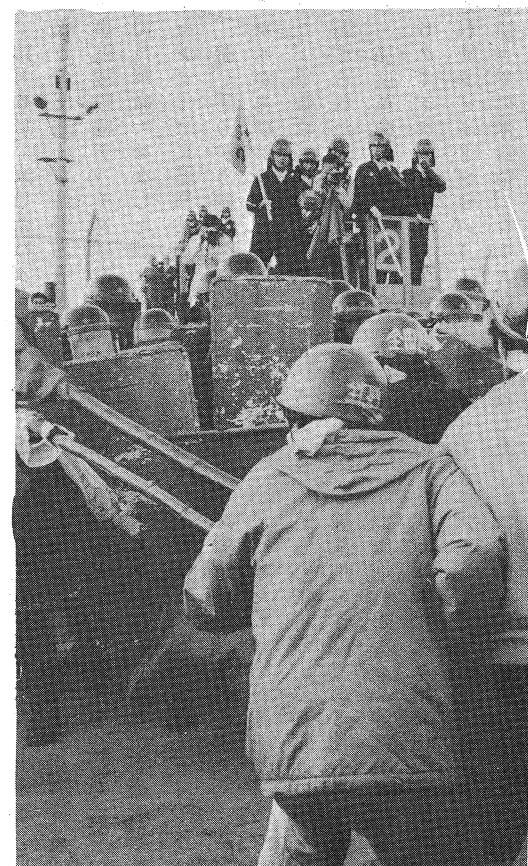
全国の闘う労働者・人民諸君！すべての同志諸君！

「民族解放—社会主義勢力の前進と結合し、日帝の朝鮮侵略反革命を内戦へ転化せよ！」

の国際主義の真紅の革命路線で武装し、10・11月闘争を我々は、武装蜂起へとうねる大道のうちに戦取せねばならない。

今秋期、10・11月におけるわれわれの歴史的任務は重大である。直面する一時代は、帝國主義が最後の力をふりしぼって社会帝国主義をまきこみながら侵略反革命を極点にまで激化させんとする時代であり、これに国際共産主義運動の大分裂をうちたてた民族解放—社会主義勢力と、わが先進帝國主義心臓部の革命党と革命的プロレタリアート人民がまさかの対峙を形成する時代である。いつさいの世界的・社会的諸勢力が帝國主義と社会帝国主義の反革命の陣営か、あるいは、世界革命Ⅱ世界プロ独へとむかう革命の陣営かの選択をめぐって巨大な分裂と分解を開始することは避けられない。

帝國主義の最後の延命の形態は、さる8月18日板門店戦争挑発がつき出したように、国際共産主義運動の封殺、変節、社会帝国主義化をこととした侵略反革命戦争遂行であり、また10月6日タイ反革命クーデターが示したように謀略と反革命軍事行動にうつたえた革命を包囲する徹底した新植民地主義支配の貫徹以外にありえない。この歴史の一時代において諸帝國主義は、自国内プロレタリアート人民を社民・社帝どもを駆使して最後の平和幻想のうちに閉じこめんとし、他方では着実に、官僚機構、政治警察、帝國主義軍隊の肥大化と排外主義政治攻勢を準備するのである。革命的プロレタリアート人民は、この一時の帝國主義的平和に幻惑させられはならぬ。革命的プロレタリアート人民は帝國主義の暴力的延命に武装蜂起とプロレタリア独裁を断固として対置し、また帝國主義打倒とともに社会帝国主義打倒の旗印を鮮明にしなければならない。この任務からの逸脱は、右翼日和見主義にあっては社民・社帝への合流、急進民主主義にあっては、帝・社帝の連合のもとでの壮絶な壊滅を結果するのである。



10/3 機動隊に激突する我部隊

**11.10 中央闘争へ！**

わが日本帝國主義もまた、現代過渡期世界の終幕期における帝國主義のこの一般的性格と何ら異なる性格を有するものではない。いやむしろ帝國主義としての誕生期から一貫してアジア民族解放闘争に対する直接的対峙の中で自己を暴力的に形成する道を歩み、今日、民族解放—社会主義勢力の主戦場たるアジア唯一の帝國主義として存在する日本帝國主義においては、この性格はより一層先鋭なかたちをとつて発現するのである。すでに日帝の生命線たる南朝鮮新植民地主義支配はその経済的側面はいうにおよばず、政治的・軍事的側面においても完成化の段階に到達しており、米帝がアジアにおいてCIAの暗躍を背景に展開してきた反革命的役割を全面的に荷いきらんとする段階に突入しているのである。7・8日米安保協・防衛協力委設置と具体的活動はその証しだ。同様のこととして国内においては日帝は、警察的・官僚的独裁支配のブルジョア専制支配を強化し、革命的プロレタリア人民と革命党への破防法的弾圧を強化している。天皇制・天皇制イデオロギー攻撃の前面化は、その決定的要たる位置をもつて存在している。

戦後「象徴天皇制」として延命した天皇制は、今日その合法性を最大限利用しつつ、官僚的警察的独裁支配の強化の要として位置し、日帝の自衛隊—官僚—警察—右翼の排外主義的侵略的強化・統合のための切り札として政治の前面に登場している。衆議院の解散、自民党大会などの政治日程に優先するものとして50年式典を强行せんとしていることからも明らかなように、式典

にかけたブルジョアジーの「熱意」は並々ならぬものである。この攻撃の侵略的・排外主義的性格は鮮明である。

これらの本質上むき出しの日帝の攻撃にペールをかぶせているのが社会帝国主義である。

杜帝は、「民族解放闘争リ世界核戦争の火種」という立場に立ちながら日帝の民族解放闘争圧殺の諸方策が「戦争抑止力」であるとペテン的に賛美し、侵略反革命戦争準備を容認し、国内においては、日帝のうち出す「中間連合政府構想」のブルジョア独裁としての本質をインペイし、積極的なそれへの参加をプロレタリア人民に呼びかけているのである。

ブルジョアジーは、あの桜田発言に示されるように、おのれの階級的利害が貫徹できる保証があれば、社共をひきずりこんだ連合政権のプランを具体化することに恐れを抱いてはいないのだ。なぜならば、杜帝＝日共の「自主独立」「経済の民主的統制」に支えられて中間連合政府は、何ら日帝の基本路線－朝鮮侵略反革命と矛盾するものではないし、資本主義の基礎をすこしも脅やかすものでは

## 1 日米帝の朝鮮侵略反革命粉碎

8月18日、板門店における日米帝の朝鮮人民に対する許すことのできない戦争挑発は、日帝の死活をかけた朝鮮侵略反革命がいよいよ具体的な戦争形態をも伴つて遂行される局面に突入したことを見えて明らかにした。ベトナム解放以降のアジアにおける帝国主義の攻撃は、一国での革命の勝利を手中におさめたインドシナ諸国の民族解放－社会主義勢力へのひき続く軍事包囲網の形成であり、ソ連杜帝を使ってのそれらを内部から破壊せんとする目論みであり、そして何よりも決定的には、世界史的な革命と反革命の攻防の焦点であり、民族解放－社会主義革命と先進帝国主義蜂起の合流点的位置をもつて存在する朝鮮半島への侵略反革命の全面化である。

我々は次の最近の二つの「事件」に注目しておく必要がある。その第一は、9月21日、第31回国連総会を前にして朝鮮民主主義人民共和国が朝鮮討議に関する34ヶ国共同決議案を撤回した、という事態である。外国軍（米軍）の韓国からの撤退と朝鮮の平和的再統一を骨子とする決議案の上程中止にブルジョア共は小踊りし、コロンボ非同盟会議での共和国の失策の結果だの、国内外紛糾の激化のなせるわざだのという口汚い論評を加えた。帝国主義とその走狗は二点の問題を完全におおい隠している。その一つは日帝の持続的で陰湿なありとあらゆる手段を講じての南北統一の胎動に対する分裂工作と妨害についてである。二点目はソ連杜帝の朝鮮労働党への反革命的圧力の存在ということについてである。

第二の「事件」は、米日帝による板門店戦争挑発にひきづくタイ反革命クーデターである。10月6日、米日帝はタイにおいて、ひとにぎりの反共・買弁勢力を擁立し、カイライ軍事独裁政権デッヂあげをくわだてた。73年「10月革命」をなしとげたNSC（タイ学生センター）に結集する革命的学生らに対して、銃、手りゅう弾、コン棒などによる白色テロルがあびせられ、少なくとも50数名の死者と、千数百名にのぼる逮捕者という大弾圧が加えられた。南朝鮮・60年4・19革命への5・16反革命がそうであったように、この倒されたタノム＝プラバート反共カイライ分子を使っての米日帝、CIAが直接指揮した反革命である。米日帝は、ベトナム・ラオス

ないからである。また、四トロ、加納一派流の右翼日和見主義が帝国主義の攻撃を見るこなくこうした中間連合政府構想を「人民の勝利の結果」と追認し、ブルジョア専制支配の補完物になりさることは不可避である。われわれは日帝の超專制的、暴力的で狡力アート人民への攻撃と全面的闘争を組織するためには、帝国主義の社共・右翼日和見主義を従えた大会戦と大会戦の過渡期に存在するこの階級協調の大攻撃と他方においてもっとも激しく闘争しなければならない。三里塚鐵塔決戦勝利！狹山最高裁決戦勝利！天皇50年式典粉碎！を掲げた10・11月のプロ人民の政治的決起を我々は、かかる攻撃との真向からの対決として組織し、革命的プロレタリアートの最高の團結を絶えることなく中央集権非合法党建設に物質化せしめ、圧倒的大勝利を手中にせねばならない。

全国の闘う労働者・人民諸君！ わが同盟とともに、10・11月闘争に決起せよ！

以上のようないアシアにおける帝国主義支配の支柱は、わが日本帝国主義の日米安保の強化と緊密に結びついた南朝鮮新植民地主義支配である。日帝は世界的規模での帝国主義の危機の中で、激しさを増す帝国主義の抗争に勝利し、市場、原材料、資源の安定的确保と、その暴力的拡大を求めてアシアにおいては南朝鮮を足場にアシア全域への侵略反革命を野望している。この野望の前に立ちふさがる勢力こそ、民族解放－社会主義勢力となるが、しかし朝鮮労働党が統一問題における原則的態度を決して譲りわたしていないことは、その直後の米帝キッシンジャーのペテンムフラーージュ』であると拒否したことに鮮明である。

第二の「事件」は、米日帝による板門店戦争挑発にひきづくタイ反革命クーデターである。10月6日、米日帝はタイにおいて、ひとにぎりの反共・買弁勢力を擁立し、カイライ軍事独裁政権デッヂあげをくわだてた。73年「10月革命」をなしとげたNSC（タイ学生センター）に結集する革命的学生らに対して、銃、手りゅう弾、コン棒などによる白色テロルがあびせられ、少なくとも50数名の死者と、千数百名にのぼる逮捕者という大弾圧が加えられた。南朝鮮・60年4・19革命への5・16反革命がそうであったように、この倒されたタノム＝プラバート反共カイライ分子を使っての米日帝、CIAが直接指揮した反革命である。米日帝は、ベトナム・ラオス

・カンボジアでの人民の勝利がアシア全土をおおいつくさんとする勢いで前進することにとことん恐怖し、民族独立と米軍基地撤去を掲げて高揚を続けたタイ民主勢力の抹殺攻撃をうちおろしたのである。大弾圧は「学生の背後にはベトナム人共産主義者がいる」といふ「大義名分」に基いて遂行され、間髪を入れず日帝は、この反革命によつて成立したカリエイ政権の正式承認をうたいあげた。

これらの事態は、先に述べた日帝のアシアにおける攻撃の反動的性格をますところなく明らかにしている。くりかえし打ち下ろされる日帝のアシア・朝鮮侵略反革命、新植民地主義支配との対決を、アシア、朝鮮人民と連帯し、わが日本プロレタリアート人民は自國帝国主義打倒の旗高く、自己の革命的政治的決起の中軸的闘争として組織し続けねばならない。そしてこの断固たる闘争の基盤の上に、國際階級闘争の最高の形態たる社会主義を従えた大会戦と大会戦の過渡期に存在するこの階級協調の大攻撃と他方においてもっとも激しく闘争しなければならない。

三里塚鐵塔決戦勝利！狹山最高裁決戦勝利！天皇50年式典粉碎！を掲げた10・11月のプロ人民の政治的決起を我々は、かかる攻撃との真向からの対決として組織し、革命的プロレタリアートの最高の團結を絶えることなく中央集権非合法党建設に物質化せしめ、圧倒的大勝利を手中にせねばならない。

全国の闘う労働者・人民諸君！ わが同盟とともに、10・11月闘争に決起せよ！

以上のようないアシアにおける帝国主義支配の支柱は、わが日本帝国主義の日米安保の強化と緊密に結びついた南朝鮮新植民地主義支配である。日帝は世界的規模での帝国主義の抗争に勝利し、市場、原材料、資源の安定的确保と、その暴力的拡大を求めてアシアにおいては南朝鮮を足場にアシア全域への侵略反革命を野望している。この野望の前に立ちふさがる勢力こそ、民族解放－社会主義勢力となるが、しかし朝鮮労働党が統一問題における原則的態度を決して譲りわたしていないことは、その直後の米帝キッシンジャーのペテンムフラーージュ』であると拒否したことに鮮明である。

第二の「事件」は、米日帝による板門店戦争挑発にひきづくタイ反革命クーデターである。10月6日、米日帝はタイにおいて、ひとにぎりの反共・買弁勢力を擁立し、カイライ軍事独裁政権デッヂあげをくわだてた。73年「10月革命」をなしとげたNSC（タイ学生センター）に結集する革命的学生らに対して、銃、手りゅう弾、コン棒などによる白色テロルがあびせられ、少なくとも50数名の死者と、千数百名にのぼる逮捕者という大弾圧が加えられた。南朝鮮・60年4・19革命への5・16反革命がそうであったように、この倒されたタノム＝プラバート反共カイライ分子を使っての米日帝、CIAが直接指揮した反革命である。米日帝は、ベトナム・ラオス

人民の闘いに「刑事特別法」を初適用し、沖縄の反基地勢力への大弾圧をもつて沖縄を朝鮮侵略反革命戦争の直接出撃基地の島として打ち固めんとする強権的攻撃を激化させているのだ。

遂行軸の第二は、韓国朴独裁政権の維持と南朝鮮の反独裁民主化闘争の圧殺である。獄中の金芝河氏、金大中氏らに対する明確に獄死を目的とした長期拘留の攻撃、3・1民主救国宣言・人士への大量報復、実刑判決はじめ、日帝と朴の南朝鮮人民への弾圧は極限的相を呈している。なかんずく、11・22在日韓国人母國留学生への第一審に引き続き、第二審での死刑・重刑判決の位置は決定的である。日帝・朴は反独裁民主化闘争の重要な一環である在日朝鮮人運動に対し、直接に反共法、國家保安法を適用して、その最後的壊滅を手がけんとしているのだ。朴政権の護持は日帝にとって至上命令であり、日帝は、来年からスタートする韓国第四次五ヶ年計画

## 2

## 官僚的警察的独裁支配の強化と排外主義・社会排外主義の育成

昨4・30に示される全世界的なプロ独立社会主義の時代の突入と、その不可避性の中で、帝國主義は、一方では、帝國主義間対立をはらみながら、社会帝國主義潮流と全世界的に連合する事によって延命せんとしている。

西欧における、社帝潮流の抬頭の中でも端的に示めされている様に、「緊張緩和一平和共生」の下で、ソ連社帝との国際関係を維持しつつ、先進国社帝潮流を自らの国内支配の補完物へと育成する攻撃として進行しているのだ。何よりも、これらの社帝潮流は、伊共、仏共が主張している様に、「プロ独立放棄」を始めとし、帝國主義国家権力には決して、手をかけず、同時に、資本主義そのものにも決して手をつけない事を、公然と主張するこによって、この現代過渡期世界における先進国プロ人民の任務を、社会主義革命ではなく、資本主義の改良（この事は、現代過渡期世界にあっては、帝國主義支配の温存と結びつく以外には不可能である）を主張し、帝國主義の暴力的打倒を否定し、議会を通じた既成国家権力の譲渡を要求し、プロ独立・社会主義の実現という歴史的任務に敵対するのである。今日、帝國主義者は、「議会」の空洞化を推し進めつつ、社帝潮流を補完物として、中間連合政府構想の幻想の下に、プロ人民を広汎に巻き込みつつ、徹底したブルジョア独裁支配の強化を、軍隊・警察・官僚機構の強化、民間反革命の育成等を通じて行なわんとしているのだ。何よりも、今日の帝國主義支配体制の危機の中で、帝國主義は、国際的にも、国内的にも、社帝潮流との二重の連合によって、現代過渡期世界という歴史的圧力

を契機に出資比率日本49%、韓国51%の、実質上全資本を日本が握る「日韓合弁投資会社」設立と、五年間で30億ドル以上にのぼる資本投下の計画の具体化を通じて、朴政権への一層の強力なテコ入れにとどまらず、朴の全権を掌握せんと策謀をはりめぐらしている。これを政治的・物質的支柱とし、「維新体制」という名の人民弾圧体制は、ますます反共軍事独裁的性格を強め、今秋、韓国国会に上程が予定されているといわれる、控訴・上告の制限とスピード裁判の合理化をねらう「簡易公判制度」新設などの法体系の悪無限の改悪が進行している。これら一切が日帝の南朝鮮新殖民地主義支配の強化に統合されているのだ。遂行軸の第三は、南北分断固定化のための国連を軸にした一連の反革命外交の展開である。すでに本年の国連総会をめぐる事態について明らかにしたように、日帝のこの動きを援助するものこそ、ソ連社帝のアジア集団安保構想に基くクロス承認的屈服である。

それ故に、この帝國主義の中間連合政府構想を全面に推し出し、社帝を巻きこんだ侵略行為するものである」（三木答弁）なる発言にも明らかな様に日帝の階級支配にとって不可欠である。

この様な日帝の危機の中での社帝＝日共の結託は、「日共が、明確に議会制民主主義の下に、その方向性を明示したことは、注目に値するものである」（三木答弁）なる発言にも明らかな様に日帝の階級支配にとって不可欠である。

それ故に、この帝國主義の中間連合政府構想を全面に推し出し、社帝を巻きこんだ侵略行為するものである」（三木答弁）なる発言にも明らかな様に日帝の階級支配にとって不可欠である。

「労使関係が安定し、警察・検察・裁判所・官僚組織さえ健全ならば、この混乱はのり切れる」という桜田発言は、この様なブルジョアジーの立場を宣言したものである。同時に、日共の13回大会における「マルクス・レーニン主義、プロ独の放棄」宣言にも明らかに、議会を通じた多数の獲得と、「資本主義の枠内で民主的統制」をめざす、社帝の平和共存路線下の民主連合政府構想が、ブルジョアジーの利害と全く合致している事が鮮明となっている。

に對して、自らの延命を実現せんとしているのである。そして、先進国社帝潮流は、社会排外主義としての性格を、今や完全に満たしている。

今日の朝鮮侵略反革命・南朝鮮新殖民地主義支配に向けた、日帝の国内支配もまた同様のものとして進行せざるをえない。

だが、この過程は、決して日帝にとって、西欧帝の様な形で進行するのではなく、より侵略的、一挙的に遂行せざるをえない。

第一には、民族解放－社会主義の闘いの直接的波頭に直面している事。第二には、IMF体制の崩壊以降、より一層鮮明となつた様に市場の狭隘性と、原材料資源の潤渴という日帝の歴史的なゼイ弱性によって、第三には、第一の闘いと結合して、武装蜂起－プロ独立をめざす、我同盟を先頭とする革命的プロ人民の闘いが、69年来の権力の組織破防法攻撃に屈せず、着実に前進して來ている事によつてである。

日帝は、ロッキード疑惑によつて、一挙的に噴出した自民党抗争においても明らかな様に、保革合同、社共、社公民等のいくつかの連合政権の成立の可能性と、社会排外主義、社会帝國主義をも自らの政権構想に巻き込むことによつて、この危機を乗り切らんとしているのである。

今日の日帝の階級支配は、帝國主義軍隊、警察官僚機構を通じて、遂行されているのであり、議会制は、それを隠蔽する以外の何物でもないのである。

それ故に、今日、日帝は「平和共存、平和移行、平和革命」を立場とする日共の議会主義としての純化を積極的に利用し、行政権力を肥大化させつつ、「中間連合政府」下の議会主義の幻想を広汎にまき散らし、「朝鮮侵略反革命を内戦に転化」せんとする我同盟を先頭とする革命的プロ人民の闘いを擊破せんとしているのである。

## 朝鮮侵略反革命の遂行の要 天皇制・天皇制イデオロギー粉碎

1976年10月15日

## 烽火

配の強化、排外主義・社会排外主義の育成という朝鮮侵略反革命体制の一挙的遂行の攻撃として天皇制（イデ）攻撃が存在している。現在の官僚的警察的独裁支配の強化の攻撃の中心軸は、天皇制（イデ）との闘争的再編である。この天皇制（イデ）との闘争は、決して、イデオロギー闘争一般として確定する事はできない。昨7・17、1・16皇太子沖縄上陸を通した沖縄の侵略反革命前線基地の強化、天皇訪米以降のすさまじい規模で進行した一連の防衛会談を通じた日米安保の強化に明らかな如く、日帝の天皇を全面に推し出した朝鮮侵略反革命の急展開は、決して「国民統合の象徴」にとどまるものではなく、日帝の侵略反革命の尖兵として登場し、国事行為の内容そのものが、侵略的・排外主義的なものへと転化している。今日の天皇制（イデ）攻撃は、この合法性を最大限利用してなされている事、更には、自衛隊、官僚、警察、右翼の排外主義的統合を推し進めるものであることからも明らかなる様に、天皇制はブルジョア階級支配の道具である。

この天皇制に対する日本プロ人民の闘争は、戦前における講座派・労農派論争を見る迄もなく決定的に不充分であった。労農派の如き、合法マルクス主義の立場からするブルジョア専制支配への「元化は論外」にしても、32テーゼに基づく、絶対主義天皇把握は、当面する革命の性格が、「社会主義革命への強行的転化の傾向をもつブルジョア民主主義革命」とすることによって、戦後の解放軍規定に見られるような、「戦後革命の敗北を生み出さざるを得なかった。

何よりも、「戦後革命の流産」の中で、「象徴天皇制」として延命した天皇は、「戦後民主主義体制の象徴」として、自らの血ぬられたアジア侵略、更には天皇制の護持に向けた「捨石戦」としての沖縄戦等の一切の戦争犯罪をひらきながら、その基礎の上に、今日、日帝の朝鮮侵略反革命の尖兵として登場しているのである。

この様な天皇制（イデ）攻撃に対する、「宗教としては認めるが、天皇の政治利用反対」（日共）は、今日の朝鮮侵略反革命の要たる天皇制（イデ）との闘争を憲法問題に落して民族解放・社会主義の闘いに敵対するのだ。革マルは、戦前における天皇制の下での日本プロの侵略戦争への排外主義的動員を、明治維新以降の日帝の急速な成長の中で、労働者人民が、「近代的自我意識を確立することなく、しばしば美化された封建思想の下にあみこまれたから」として、それを「天皇制イデオロギー＝日本精神主義」するのであるが、だから日本プロは天皇制の下に屈服したといふ主張である。二段階戦略を否定してやまない彼らは、実践的には、それを承認し、

自衛隊・官僚・警察機構のより侵略的・強権的再編である。この天皇制（イデ）との闘争は、決して、イデオロギー闘争一般として確定する事はできない。昨7・17、1・16皇太子沖縄上陸を通した沖縄の侵略反革命前線基地の強化、天皇訪米以降のすさまじい規模で進行した一連の防衛会談を通じた日米安保の強化に明らかな如く、日帝の天皇を全面に推し出した朝鮮侵略反革命の急展開は、決して「国民統合の象徴」にとどまるものではなく、日帝の侵略反革命の尖兵として登場し、国事行為の内容そのものが、侵略的・排外主義的なものへと転化している。今日の天皇制（イデ）攻撃は、この合法性を最大限利用してなされている事、更には、自衛隊、官僚、警察、右翼の排外主義的統合を推し進めるものであることからも明らかなる様に、天皇制はブルジョア階級支配の道具である。

この天皇制に対する日本プロ人民の闘争は、戦前における講座派・労農派論争を見る迄もなく決定的に不充分であった。労農派の如き、合法マルクス主義の立場からするブルジョア専制支配への「元化は論外」にしても、32テーゼに基づく、絶対主義天皇把握は、当面する革命の性格が、「社会主義革命への強行的転化の傾向をもつブルジョア民主主義革命」とすることによって、戦後の解放軍規定に見られるような、「戦後革命の敗北を生み出さざるを得なかった。

何よりも、「戦後革命の流産」の中で、「象徴天皇制」として延命した天皇は、「戦後民主主義体制の象徴」として、自らの血ぬられたアジア侵略、更には天皇制の護持に向けた「捨石戦」としての沖縄戦等の一切の戦争犯罪をひらきながら、その基礎の上に、今日、日帝の朝鮮侵略反革命の尖兵として登場しているのである。

この天皇制に対する日本プロ人民の闘争は、戦前における講座派・労農派論争を見る迄もなく決定的に不充分であった。労農派の如き、合法マルクス主義の立場からするブルジョア専制支配への「元化は論外」にしても、32テーゼに基づく、絶対主義天皇把握は、当面する革命の性格が、「社会主義革命への強行的転化の傾向をもつブルジョア民主主義革命」とすることによって、戦後の解放軍規定に見られるような、「戦後革命の敗北を生み出さざるを得なかった。

何よりも、「戦後革命の流産」の中で、「象徴天皇制」として延命した天皇は、「戦後民主主義体制の象徴」として、自らの血ぬられたアジア侵略、更には天皇制の護持に向けた「捨石戦」としての沖縄戦等の一切の戦争犯罪をひらきながら、その基礎の上に、今日、日帝の朝鮮侵略反革命の尖兵として登場しているのである。

この天皇制に対する日本プロ人民の闘争は、戦前における講座派・労農派論争を見る迄もなく決定的に不充分であった。労農派の如き、合法マルクス主義の立場からするブルジョア専制支配への「元化は論外」にしても、32テーゼに基づく、絶対主義天皇把握は、当面する革命の性格が、「社会主義革命への強行的転化の傾向をもつブルジョア民主主義革命」とすることによって、戦後の解放軍規定に見られるような、「戦後革命の敗北を生み出さざるを得なかった。

何よりも、「戦後革命の流産」の中で、「象徴天皇制」として延命した天皇は、「戦後民主主義体制の象徴」として、自らの血ぬられたアジア侵略、更には天皇制の護持に向けた「捨石戦」としての沖縄戦等の一切の戦争犯罪をひらきながら、その基礎の上に、今日、日帝の朝鮮侵略反革命の尖兵として登場しているのである。

## 4 総対決し、国際主義をうちたてよ 今秋、天皇制・天皇制イデオロギー攻撃と

我々は今秋期における第一の政治的任務として天皇制・天皇制イデオロギー攻撃の頂点をなす、11・10天皇在位50年記念式典粉碎闘争を全力をあげてたたかねかねばならない。昨年7・17皇太子沖縄上陸、9・30天皇訪米という一連の反革命行為を通して天皇制は再び政治の前面に登場した。これに際して天皇は異例の記者会見にのぞみ、「第二次大戦の責任は軍部であり、私ではない」「広島への原爆投下はしかたがなかった」「戦後まだ一度も行っていない沖縄にせひ行きたい」などの反革命宣言の具現化である。

政府首脳、ブルジョアジーを総結集しての日本武道館での式典開催にはじまり、明治天皇にならった明治公園にかかる「昭和の森」建設、記念百円硬貨七千万枚、記念切手七千万枚、国鉄記念入場券・急行券などの大量発行、あるいは当日の学校・官公庁の半日休業決定など、皇太子成婚行事をうわまわる戦後最大の「祝賀行事」強行に日帝は血道をあげているのだ。この遂行にむけて国家権力は、すでに「天皇50年記念式典特別警備本部」を

設置し「式典警備」と称する「障害者」に対する予防検束、革命的労働者人民へのアパート・ローラーなど公然たる超強権的な治安弾圧体制を敷きつめんとしている。この動向に連動し、民間においては、日本遺族会、神社本庁、右翼団体などで「奉祝行事実行委」が結成され、青年団、町内会などをまきこんだチヨウチン行列の組織化など、天皇制賛美の行動を一齊におこさんとする準備が進められている。

我々は、天皇の50年が、徹頭徹尾、血ぬられた侵略反革命の歴史であること、その本質は「象徴天皇制」においてもひきつがれていたことを全面的に暴露し、天皇50年式典が、今日の日帝の朝鮮侵略反革命遂行のために排外主義的にプロレタリアート人民を動員し統合せんとするものであることを明らかにしたかうのでなければならない。国家権力、政治警察・機動隊の戒厳体制と、民間右翼を大動員しての地域末端にいたるまでのプロレタリアート人民への排外主義的組織化の攻撃をぶち破り、式典強行を何としても粉碎せねばならない。

## 寺尾差別判決2周年糾弾

# 狭山最高裁決戦勝利！

全国の革命的労働者人民、烽火読者諸君！  
今秋期、日本プロレタリア人民の、日帝の朝鮮侵略反革命戦争との総対決の中で、狭山最高裁決戦の組織化を断固たる政治的任務として掲げ、その勝利を総力を尽して切り拓け！

七四年一〇月三一日、日帝の部落差別攻撃の絆意をかけて、寺尾により打ちおろされた差別判決以降二年、まさに、我々は狭山差別裁判糾弾戦のみならず、部落解放闘争の、そして、日本階級闘争の決定的正念場として、今秋期闘争を迎えていた。既に、日帝によるレールを引かれていた、最高裁藤林・吉田体制の早期判決―上告棄却攻撃の急ピッチな展開に対し、我々は、満身の力をこめてこれを打ち碎き、「口答弁論―事実審理―最高裁決戦勝利」を我々の力で推し進め、狭山差別裁判糾弾勝利の道を切り拓かねばならない。

日帝―最高裁藤林・吉田体制に対する一切の日和見主義・敗北主義こそ、日帝の朝鮮侵略反革命戦争への屈服の道を準備し、石川一雄氏、革命的部落大衆・労働者人民の闘いを、

その下に破壊し去らんとする、敵権力の同盟  
10・31中央集会を頂点にした狭山最高裁決戦の勝利をかちとらねばならない。「狭山闘争は部落解放闘争ではなく、石川氏の救援運動である」と公然と主張する一部の融和主義者が敵対を粉碎し、中央集会・ハンストで10・31をたたかうことを決定した部落解放同盟との戦闘的スローガンを掲げ、10・31明治公園への武装進撃をかちとれ。  
第三に我々は、去る10月3日、三里塚第二公園に全国の革命的労働者、農漁民八千三百を総結集してうちぬかれた三里塚現地闘争の成果をふまえ、三里塚鉄塔決戦に勝利しなければならない。敵、日帝―公団は三里塚闘争の戦闘的爆発にあわてふためき、10・3の62名不当逮捕大弾圧をはじめ、三里塚反対同盟内部にブルジョア分子を潜入させることをもたらすながら、鉄塔撤去、空港開港のなりふりかまわぬ攻撃を強化している。日帝の朝鮮侵略反革命に敢然と対峙する岩山大鉄塔を死守し、三里塚闘争の革命的発展をかちとれ。

我々は、今秋闘争における以上三つの任務を断固として闘いぬく事を通じて、日帝の朝鮮侵略反革命に向けた天皇制（イデ）攻撃と全面対決し、右翼日和見主義の排外主義連合である」と公然と主張する一部の融和主義者が敵対を粉碎し、世界革命戦争―世界プロレタリアート人民は共産同（全国委）に結集しプロレタリアートの武装蜂起―プロレタリア独裁を組織する中央集権非合法党を戦取せよ」「南朝鮮新植民地主義支配―沖縄侵略反革命前線基地粉碎、安保粉碎、日帝打倒」「日帝の侵略反革命の要―官僚的警察的独裁支配粉碎」「社共・排外主義政権構想を打ち砕き右翼日和見主義の合流を粉碎せよ」の経路線をかかげ今秋闘争の大爆発を闘いとれ。

### 敵権力の早期上告棄却策動に 決戦体制を構築せよ

現在、狭山最高裁決戦は、日帝―最高裁藤林・吉田体制の早期審議―上告棄却攻撃の下で、決定的重大多、そして緊急の段階を迎えている。

既に、日帝―国家権力は、七四年一〇・三一寺尾差別判決の中で、上告棄却の布陣を打つた。それは、七六年春以降、急ピッチにその最後的とどめへと突き進んでいる。

今年六月四日、最高裁内藤丈夫上席調査官、新矢悦二主任調査官は、狭山弁護団に、その野望を宣言した。

第一に、四月一日から新矢を「狭山裁判の専属」として開始された上告趣意書の調査作業が、急速に進められており、それは明らかに「書類審査」の段階で、狭山差別裁判糾弾闘争を破壊せんとする野望に他ならないことを明らかにしたことである。

第二に、「調査官室の他の調査官を含む事

# 獄中の石川一雄氏を即時奪還せよ！

件の問題点の合議体での検討」をかかげ、最高裁調査官室が総力をかけて、上告棄却攻撃に入ったことを明らかにした。

日の日帝の死活をかけた朝鮮侵略反革命戦争遂行体制構築の野望をむきだしにしたものに他ならない。

第三において、前記の野望は更に鮮明となる。この調査官室は、「裁判官

うに、帝国主義一國家権力の下での部落差別攻撃は、明確に、官僚的警察的独裁支配を総動員した差別分断支配の貫徹と、侵略反革命への全人民の動員

提出の調査書に口答弁論を開催するか否かの意見を付記する可能性がある」と言い放ち、この段階で早期上告棄却を断行することを宣言した。

不可分に、第二に、革命的部落大衆、プロレタリア人民の闘争を破壊し尽くし、排外主義—融和主義を育成し、自らの手に封殺しきることを野望として推し進められている一連の部落差別攻撃の頂点をなすものとして存在している。

周知のようすに、帝国主義は、帝国主義足下の一部プロレタリアートを買収し、ちっぽけな利潤を与えることによつて、これとの同盟を取りつけつつ、労働者階級の排外主義的掌握を全面的に強行していく。この買収の基礎は、植民地主義支配であり、そして、その上に国内の差別分断支配をすえ、それは国家権力機構によって暴力的に作りだされ、執行される。

却を踏み固め、「残る証拠は紛失した」と開き直り、「狹山」糾弾鬭争破壊の道を、用意周到に掃き清めて いる。

・吉田体制は、この調査官室が準備している一挙的早期上告棄却の立役者として、反革命的陣型を打ち固めている。狹山最高裁決戦に向う第二小法廷――吉田裁判長・本林・大塚・岡原・栗本裁判長は、稀代の反動裁判官であり、日帝の統治形態の転換の尖兵として最も高裁に浮上してきた。

ジアにおいて、米日帝は帝国主義世界支配の死活をかけて、民族解放—社会主義勢力のインドシナへの封殺、朝鮮半島への波瀬を阻止すべく朝鮮侵略反革命戦争をくり広げんとしている。8月朝鮮半島でばつ発した「板門店事件」での米帝の戦争挑発策動と、日米韓反革命共同軍事行動の発動、10月タイでの反共軍事クーデタ、等々の一連の事

打ちおろされた無実の部落青年石川氏を「儀」とした部落差別攻撃を、徹頭徹尾日帝が貫ぬくことを満天下にさらけだしたものである。引き続く差別文書「特殊部落地名総鑑」、差別文書「全国特殊部落リスト」、そして他方の「同和行政打ち切り」攻撃こそ、その具体的執行に他ならない。

は、あの憎むべき一〇・三一寺尾差別判決のその日、中央大学司法試験合格者祝賀会の席上で、「寺尾裁判長は毅然として、あのような立派な判決を出した。・・・このような立派な法曹がいることを誇りに思い、世の風潮に左右されず、実務法曹として励んではほしい。」（赤谷報告書）と言い放った寺尾の繼承者、寺尾と同一の権力の走狗

今こそ、死力を尽くした帝国主義者どもの攻撃と、これと結合して暗躍する社会帝国主義に対し、今こそ、革命との抗争の激突の時代——全世界の革命的プロレタリア人民・被抑圧民族が、帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命との全面戦争へと、その隊伍を武装し、打っててる任務を鮮明につきだした。

する自民党内抗争のさ中に、日経連桜田が言い放った日帝一国家権力の総意に明らかな如く、警察一司法権力、行政権力一体となり、國際階級闘争の脅威と、帝国主義間強盜的抗争にあえぐ日帝の危機の反革命突破をかけて、侵略反革命の要一官僚的警察的官能支配を発動させ、集中的に推し進められているのが、この部落差別攻撃一狹山差別裁判に他ならないのである。我々はこれとの総対決をかけて、狹山最高裁

「地裁一高裁の判決をくつがえすようないきった判断を最高裁は下すべきではない」「最高裁は余りにも人権擁護が進みすぎている。審理の短期化が求められている」と宣言した反動裁判官である。

まさにこのようにして、最高裁調査官室、最高裁第二小法廷を尖兵としてフル回転する、日帝一最高裁藤林・吉田体制下の、「密室書面審理」上告棄却」攻撃との真向うからの対決が、今秋期、一大決戦として煮つまっているのである。

最高裁決戦を朝鮮侵略反革命との  
一大階級攻防戦として戦取せよ

この國家権力機構を総動員した日帝  
—最高裁の早期上告棄却攻撃こそ、今

と不可分であり、狹山最高裁決戦こそ  
日帝の歴史的使命たる朝鮮侵略反革命  
への道と、これと対決する革命的プロ  
レタリア入民・部落大衆の政治的任務  
との、一大階級攻防戦として存在して  
いるのである。

我々は、狹山最高裁決戦の渦中で、  
帝国主義の最後の時代にふさわしい死  
活をかけた侵略反革命戦争遂行と、そ  
れへのプロレタリア人民の動員、天皇  
制（イデ）攻撃と対決していくにあた  
って、日本プロレタリア人民の避けて  
通れない任務として、部落差別攻撃と  
の対決が存在することを鮮明にしてい  
かなければならぬ。

決戦を勝利的に切り拓かねばならない。そして、第二に、日帝の今日の攻撃は、階級闘争の成熟に狙いを定め、破壊し、その專制支配を貫徹せんとしていることである。

日帝の部落差別攻撃は、解放闘争の歴史や、狹山第二審公判闘争の到達点を語るまでもなく、同時に、部落解放闘争の持つ革命的・民主的性格に対する恐怖をこめた攻撃として打ちおろされている。

部落解放闘争は、今日その発生の物質的基盤をブルジョワ階級支配に持ち常に、ブルジョワ国家権力の專制支配との対決を要求されてきたことによつて、日本階級闘争史上に大きな位置を占め、その組織化は、共産主義者（一

# 10・31日帝一最高裁ゆるがす大闘争で

分断支配—部落差別攻撃との対決をア  
イマイとする時、革命的プロレタリア  
人民の闘争は不徹底となり、そして部  
落解放闘争は完全解放の道を閉ざし、  
に打ち倒されていくのである。

今秋期、狭山最高裁決戦ほど、この  
任務を鮮明にし、日帝—国家権力のブ  
ルジョワ階級支配の要—部落差別攻撃  
との対決を全人民の課題とすることが  
緊要になつてゐる時はない。

同志諸君！今秋期、総力を尽くして、  
日帝の朝鮮侵略反革命戦争との総対決  
の中で、狹山最高裁決戦の組織化を貫  
徹し、△武装蜂起—プロ独△の大道を  
おし広げ、この中にへ部落完全解放▽  
の旗を翻えせ！一四年にわたる不屈の  
糾弾を発し続ける無実の石川氏に対す  
る、日帝の獄死—抹殺攻撃を断固とし  
て粉碎し、革命的労働者人民・部落大  
衆を総結集せしめ、狹山最高裁決戦勝  
利の大高揚を切り拓け！

## 社会排外主義・右翼日和見主義の 融和主義路線をうちつけ

このようない秋期狹山最高裁決戦の  
決定的な局面と任務を前に、我々は、  
煮つまる戦争と革命の時代に、敵権力  
と結びつき、連合し、あるいは真向う  
から、あるいは隊列内部に忍びこみ、  
闘争を破壊せんとして登場した社会排  
外主義・右翼日和見主義との対決をか  
かげなければならない。これとの全面  
的対決抜きにして、我々の任務の実現  
は空文句である。

それは、帝国主義支配が、これを不  
可欠の補完物としており、これらの  
部分は、帝国主義者によって送りこま  
れた分遣隊であるからである。

戦後ヤルタ・ジュネーブ体制形成過  
程において、帝国主義はこの野望をも  
つて、スターリン主義の社会帝国主義  
への転化を完成させた。それは今日、  
戦後帝国主義の世界支配を打ち破つて  
きた民族解放—社会主義勢力の歴史的  
勝利を前に、帝国主義の侵略反革命、  
社会帝国主義の武装反革命のむきだし  
の攻撃を強めると同時に、ますます深  
く結合し、革命的プロレタリア人民、  
被抑圧人民の闘争を破壊し尽くし、幻  
惑し、自らの手中に掌握して、これを  
封じこめんとする野望をあらわとした。  
日帝は、桜田発言に見られる侵略反  
革命戦争遂行体制構築を一方の基軸に、  
他方、この間の先進国社帝潮流共産党  
の帝国主義との盟約宣言の一環たる日



5/23 狹山闘争に決起した我 A I F

共不破論文—13回大会に示された「中  
間連合政権構想」に対し、三木答弁  
「日本共产党が、明確に議会制民主主  
義を認め、その方向性を打ちだしたこ  
とは注目に値する」と述べたことにも  
見られるように、前者に一指も触れさ  
せぬ、「中間連合政府」への幻想を  
補完物として、その專制支配を貫徹  
せんとしているのである。

昨年来の、日本共产党の公然たる狹  
山差別裁判糾弾闘争破壊—敵対攻撃の  
強化こそ、このような反革命純化の具  
体的帰結であり、日帝との連合に向け  
た一切の桎梏物を取り払う過程の具体  
的あらわれに他ならない。「狹山事件」  
は一般刑事事件であり、政党たるもの  
が無責任にこれに介入することはでき  
ない」という露骨な反革命宣言は、ブ  
ルジョワ国家権力機構を全面的に容認  
し、日帝の部落差別攻撃を「左」から  
支え、部落大衆に打ちおろす徒輩とし  
て、公然と登場することを明らかとし  
たものである。

今襲いかかるこの社会排外主義の攻  
撃に対し、我々は、隊列の中からこれ  
への武装解除を呼びかけるのみならず、  
合流せんとする排外主義—融和主義の  
抬頭を打ち破らなければならない。

既に、七四年一〇・三一以降、一大  
潮流をなし、つかず離れず密接に結び  
つき、狹山最高裁決戦を骨抜きにせん  
としてきた右翼日和見主義者どもの排  
外主義—融和主義路線との鮮明な分歧  
を我々は闘い取らなければならぬ。

昨日一二月中央共闘会議結成へと収斂  
されたこの動きは、その宣言文が銘打  
つてゐるよう、狹山差別裁判糾弾闘  
争から「暴力を是認する集団」—革  
命的左翼を排除し、日帝の侵略反革命  
—統治形態の転換と対決する革命的政  
治闘争の発展を破壊し、一ブルジョワ  
民主主義的要求への歪曲をなさんとす  
るものに他ならない。彼らの弁護団会  
議であらわれた「狹山闘争は、部落解  
放闘争ではなく、石川氏を救援すると  
いう運動でなければならぬ」なる発  
言は、日帝の部落差別攻撃の意のま  
に闘いを武装解除させ、他ならぬ日本  
共产党と足並みをそろえ、排外主義政  
権構想の沼地へと労働人民を引き入れ  
るものである。これが、真向うからの石  
川氏の糾弾闘争への敵対、三百万部落  
大衆への敵対、労働者人民の政治的任  
務の破壊であるかは明らかである。「日  
本の声」を匹敵とするこれらの部分は、  
日帝—最高裁の総力をかけた早期上告  
との結合というその排外主義—融和主  
義路線への呼び込みをくり返し、その  
ことをもって、革命的労働者人民・部  
落大衆への攻撃を深めるばかりである。

そして右翼日和見主義者は、社会排  
外主義—融和主義の随伴者たるその姿  
を、陰然公然たるそれへの合流として  
露わにしている。「猛省精神」(日向)  
「差別構造の解体」(フロント)にも  
見られる如く、ブルジョア階級支配と、  
その物質的基礎の上に抬頭する社会排  
外主義に一指も触れることなく、朝鮮  
侵略反革命戦争遂行体制強化の枢軸と  
して打ち下ろされる嵐の如き日帝の部  
落差別攻撃への武装解除の道に、革命  
的部落大衆・プロレタリア人民を引き  
ずりこまんと努めて来た彼らは、「職  
場学園ゼネスト」と、狹山最高裁決戦  
をひたすら、社共・民同との組合運動  
をめぐる争いの内に封じこめんと奔走  
している。

彼らの「狹山闘争の全人民的政治闘  
争への飛躍」なるものは、日帝の侵略  
反革命—官僚的警察的独裁支配の強化  
と対決する革命的政治闘争の発展とは  
一切無縁であり、「世論の喚起」「石  
川氏を救援する運動」を言いしかえたし

るものにすぎない。四トロの如く、「社共は労農政府を樹立せよ！」と公然と言ひはなつか、日向の如く「蜂起・内戦」なるもので厚化粧しつつ、一心に闘いを排外主義政権構想の下に縛りつける事で、その任をはたすかは問題でなく、彼らは帝國主義の賛美者であり、良き随伴者以外ではない。

これら隊伍を内部から腐蝕せしめんとする社会排外主義・右翼日和見主義を打倒一掃すること抜きに一切が空語に終ることを胸にきざみこまねばならない。

現在、日本帝国主義は藤林・吉田体制の下に、寺尾の賛美者大塚をはじめ反動裁判官を擁し、新谷の手になる報告書を完成させつつ、他方、証拠開示と答弁書の拒否等、最高裁一

最高検を先頭に一切の国家権力機構を総動員して、一路、「書面II密室審理」—上告棄却

一石川氏獄死を打ち下ろさんとしている。我々は今や、石川氏の生命と狭山差別裁判の補充書を作成しつつ「中央集会・ハンストで10・31を闘う！」と全国の革命的部落大衆、

糾弾闘争をめぐる一大決戦の秋を迎えていた。

全青—9・26狭山完全勝利総決起闘争として

打ち固めて来た部落解放同盟は、上告趣意書

の補充書を作成しつつ「中央集会・ハンストで10・31を闘う！」と全国の革命的部落大衆、

プロレタリア人民に檄を発し、10・31の大爆

発と狭山最高裁決戦勝利に向け隊伍を整え、

戦列を打ち固め、一点10・31寺尾差別判決二

ヶ年糾弾闘争に邁進している。

全国の革命的部落大衆・プロレタリア人民

諸君！

敵、日帝—最高裁藤林・吉田体制の同盟者分遣隊の一切を打倒し、更に革命的隊伍を打

ち固め、怒濤の進撃を開始せよ！

「日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制と総対決し、「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦へ転化」するへ武装蜂起—プロ独樹立の大道を、中

央集権非合法党建設の大前進の下に、戦取せよ！

「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦へ！」の下に、

「日帝—最高裁藤林・吉田体制打倒！石川

雄氏即時奪還！狭山最高裁決戦勝利！」を、

10・31の大爆発でもぎとろうではないか。

10・31首都明治公園へ武装進撃し、日帝の死活をかけた官僚的警察的独裁支配強化の枢

軸たる部落差別攻撃を木端微塵に打ち砕け！

# 10.8 羽田闘争9周年・朝鮮侵略反革命粉碎 関西

## 関西

全国の革命的同志諸君！

9・1闘争が発した今秋の戦闘宣言は、9

・30・10・3三里塚鉄塔決戦を牽引しつつ羽

田闘争9周年10・8闘争を戦取する事をもつて、我が党と闘う人民を激化する日帝の朝鮮

侵略反革命との更なる激突の真只中へと登場せしめた。

我が反帝戦線（全国委）を先頭に切り開かれた今秋期のこの激闘こそ、今夏8・18板門店事件を巡って一挙に稼動を始めた日米帝一朴の朝鮮侵略反革命戦争へ向けた死の行軍を内戦に転化すべき我が日本プロの責務をかけた帝国主義・社会帝國主義の死闘以外ではな

い。何より朝鮮労働党が全世界に暴露し、全

日全軍戦闘体制で応えた如く、8・18直後の日米帝の即座の出撃体制の構築とこれと一体となつた朴による「金日成糾弾集会」の中にこそ7・8日米安保協により飛躍的に強化された日米韓侵略反革命体制の具体的稼動があ

る。一方、ソ連社帝は「民族解放闘争II戦争の火種」なる日米帝への一層の屈服と武装反

革命としての純化を板門店事件への一貫した沈黙、「南北クロス承認」南北分断固定化にしすすめている。かかる帝・社帝の十字砲火の只中で、朝鮮人民の闘いは、まさに民族解放・社会主義勢力と合流し、現代過渡期世界の最終的段階たる「戦争と革命の時代」の主戦場へと登場した。この戦後ヤルタ・ジュネーブ体制崩壊後の「戦争と革命」の世界史的時代における朝鮮半島を巡って激烈に展開される帝国主義・社会帝國主義と民族解放・社会主義勢力の攻防戦に、「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦へ！」の旗を掲げ、民族解放・社会主義勢力の前進との歴史的結合を実現していくことこそ帝國主義と社会帝國主義をそ

根底から打倒していく巨大な一步を戦取する闘いである。

同志諸君！歴史的な60年代後半「組織された暴力とプロレタリア国際主義」をかかげ、

田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘争を戦取した。

当日夕刻6時、我が武装した反帝戦線の隊列は、加納一派の10・1紅旗政治集会なると

権力打倒闘争の一時代をこじあけた10・8羽田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘

争を戦取した。

当日夕刻6時、我が武装した反帝戦線の隊列は、加納一派の10・1紅旗政治集会なると

権力打倒闘争の一時代をこじあけた10・8羽

田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘

争を戦取した。

当日夕刻6時、我が武装した反帝戦線の隊列は、加納一派の10・1紅旗政治集会なると

権力打倒闘争の一時代をこじあけた10・8羽

田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘

争を戦取した。

当日夕刻6時、我が武装した反帝戦線の隊列は、加納一派の10・1紅旗政治集会なると

権力打倒闘争の一時代をこじあけた10・8羽

田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘

争を戦取した。

当日夕刻6時、我が武装した反帝戦線の隊列は、加納一派の10・1紅旗政治集会なると

権力打倒闘争の一時代をこじあけた10・8羽

田闘争9周年のこの日、我々は、10月の革命的政治闘争の第2弾として、全関西総決起闘

争を戦取した。



10/8 国際主義の精神を継承し、朝鮮侵略反革命粉碎

# 三里塚鉄塔決戦 連続闘争うちぬく

10・3現地闘争頂点に

全ての革命的労働者・農民諸君！烽火読者諸君！

反帝戦線（全国委）は、今秋、三里塚闘争勝利！鉄塔決戦勝利！を「プロの武装蜂起とプロ独を組織する中央集権非合法党建設」のもと、反対同盟との固い結合をかちとり最先頭で闘う決意を送る。

## ■9・27現闘小屋開き5周年闘争に勝利

全ての同志諸君！

我々反帝戦線（全国委）は、75年5月加納一派の脱落脱走を頂点にした、共産同（全国委）党内分派闘争の渦中で、現闘における党内闘争から脱落し、党の任ムを「認識・啓蒙」に切り縮め、権力、ブルジョア、マス・コミと連合する加納一派と密通し、「プロの武装蜂起を組織する中央集権非合法党」に敵対する永井一派との分派闘争を勝利的に遂行した。彼らは「農業農民綱領獲得」のためと称して現闘の任ムを「農民の調査」に陥め、調査研究と學習から共産主義の実現を夢想するという右翼日和見主義に屈服し、純化した。我々はこれに対する断固たる組織的決着の闘いを組織した。

解党主義の末路は、組織破壊のみならず、三里塚闘争の破壊を通して最終的現闘破壊をもち込むことを通して反対同盟との固い結合をかちとるべく闘いを前進させてきたのである。この闘いの成果は、反対同盟と我々の手による現闘団結小屋開き5周年集会として、現地団結小屋において闘いとられた。

反対同盟の圧倒的結果の下闘いとられた5周年集会は、第一に反対同盟と我々の共通の成果を確認し、決意を共有したのであり第二に、我々の党内分派闘争の勝利を確認し、そして、三里塚闘争の完全勝利へ向けた不退転の隊伍を確認したのである。

この闘いは、反対同盟と我々との組織的共闘関係の一層の打ち固めと、かたい結合を闘いとったのである。この地平の上に確固たる現闘団の闘いを築きあげ、反対同盟を中心とした三里塚闘争の大膽な革命的前進を闘いとする敢然たる決意に燃えたのである。

## ■9・30三里塚鉄塔決戦勝利全闘争に勝利

上に、反対同盟とのかたい結合を闘いとり、9・30全闘争を組織した。9月30日、全闘争の革命的労働者人民の圧倒的多数を結集し、三里塚鉄塔決戦へ向けた断固たる闘いを闘いねいた。この闘いは、ヤルタリジユネーブ体制崩壊以降の「戦争と革命の時代」における革命的労働者人民の任務を「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦に転化せよ！」として鮮明にし、日帝の鉄塔破壊・開港攻撃が、侵略反革命・南朝鮮新殖民地主義支配の強化へ向けて具体的遂行の不可欠の攻撃であることを確認し、10・3三里塚現地闘争に総力決起しきることを鮮明にした。

とりわけ発言にたつた、電通労働者の代表は「戦争と革命の時代」における革命的政治闘争が、右翼日和見主義との党派闘争に勝利することなしに勝利しえないこと。そして、社共排外主義政権構想に屈服し、その尻押し部隊として純化する四トロを筆頭とする右翼日和見主義を粉碎し、その革マル主義への水先案内人加納一紅旗一派を打倒し闘いぬく決意が示された。

## ■9・27—9・30として闘いねいてきた我々の着実な勝利を10・3現地闘争に進撃していくことを確認し、圧倒的な「異議なし」と、われんばかりの拍手の中に集会をしめくつたのである。

■10・3三里塚現地闘争に反帝戦線旗かかげ、精銳部隊の登場かちとり、権力をけちらし、闘いぬく

全ての同志友人諸君！

9・27—9・30と打ち続く勝利的平地をふまえ「日帝の朝鮮侵略反革命を内戦に転化せよ！」の革命的スローガンを高々とかげ、三里塚闘争の完全勝利を戦取すべく、深紅の熱気に満ちあふれる革命部隊を登場させ、権力との激突戦に勝利し、三里塚闘争の大爆発を闘いとったのである。

集会は、反対同盟石橋副委員長の開会宣言で開始された。瀕利脱落以降唯一の副委員長としての自らの指導的任ムと、二期工区内反対同盟の团结と勝利の確信に燃え、敢然たる意を打ち固めるにふさわしく秋晴れに晴れ上がった。あいさつにたつた戸村委員長は「農民の闘いを革命闘争に転化させる」決意と、三里塚の闘いが、まさに「反権力」でなく「権力打倒」としてしか勝利しえないことを鮮明に提起した。そして、72年沖縄「返還」

地強化の攻撃を「基地とCTSと賈春觀光の島」へと大改造することをもつてする日本帝國主義の攻撃、その中軸に皇太子アキヒト沖縄上陸をもつて打ち下す天皇制（イデ）攻撃との闘いを背景とし、日帝の歴史的な支配への抵抗を描いた金城実氏の「闘う農民像」を鉄塔にすえつけることが紹介され、満場の圧倒的拍手で確認された。金城氏は、「三里塚の闘いの中でこそ、『闘う農民像』はふさわしい」とのべ、日帝の侵略反革命前線基地として強化される沖縄に対する攻撃との闘いと三里塚闘争を結合させて闘う決意が述べられ、万雷の拍手で確認された。

全国の農民、漁民、基地住民闘争を闘う各代表からつぎつぎに「三里塚の闘いに学び、自らの闘いに起ち、勝利する」敢然たる決意が示され、集会はいよいよ燃え上がり、終盤に入っていく。

闘いの昂揚した熱気につつまれる中、青年行動隊の代表から集会宣言が提起される。「日帝国家権力は、一切の開港の目途を失つてゐる。にもかかわらず鉄塔に攻撃を定め打ち下さんとする野望は、侵略戦争に結びついでいる。三里塚闘争の全成果かけ、この攻撃にたち向い勝利する」という宣言は、全国において持続拡大する農漁民の革命的民主主義闘争との固い結合を確認し、その最前線の闘いとして断固たる勝利の決意が宣言されたのである。この宣言は圧倒的拍手と「異議なし！」のもとに確認され、文字通り、天をも突く昇揚の中で、権力の戒厳体制を突きやぶり、「闘う農民像」、反対同盟を先頭に強固なデモに出発する。我が部隊は、集会途中、我がピラミッド部隊に姑息な敵対をくり返す加納一紅旗一派を粉碎し、我が部隊の進撃の前のひ弱な襲撃の試みを一撃のもとに粉碎し、勇躍デモに進撃したのである。そして桜台における日帝国家権力一機動隊の恐怖に満ちた弾圧をはね返し、唯一密集した武装激突戦を開いたのである。我が部隊が桜台に接近するや権力の弱々しい罵声が飛びかう。恐怖にすみあがつた機動隊がざわめく。我が部隊は指揮者の号令の下に隊形を整える。すばやく方向を転回し、アッという間に突激体型を作る。間髪いれず号令とともに竹ざおはうなりをあげ機動隊の阻止線に激突した。あわてふためく機動隊員と指揮者。なすすべもなく「全員逮捕／全員逮捕！」をわめきながら右往左往する。機動隊の阻止線を寸断し、けちらしに我が部隊は勝利を確認し、機敏に部隊を収約し解散地点へ向かつたのである。

國家権力一機動隊は、我々への敗北と、我が同盟を先頭とする三里塚闘争の大爆発に対する恐怖に満ちた弾圧を、革命的労働者人民に打ち下ろし、「公妨」と称して62名もの大量逮捕をくり返したのである。それは全国農民漁民、基地住民闘争から三里塚に連帶する革命的民主主義闘争を任う部分に集中的に打ち

下されたことにも明らかに如く、日帝國家権力の恐怖と野望を鮮明にするものである。

した革命的人民に対する不当逮捕攻撃は断固粉碎せねばならない。

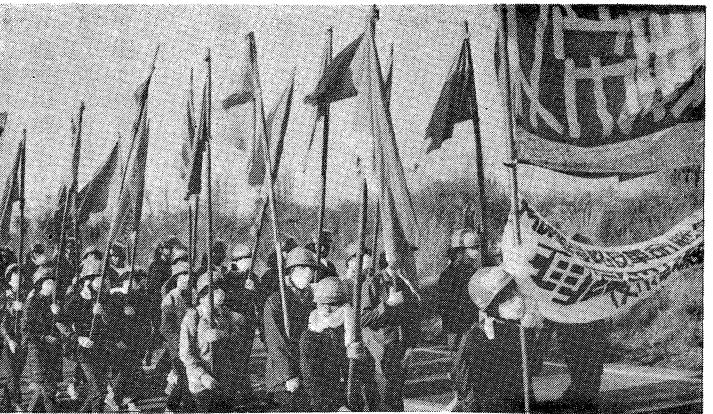
10・3 國争は、日帝國家権力のこのような攻撃にひるむことなく、71年第二次強制代執行以来の八三〇余回の上級裁判を占領

的労働者人民とともに勝利的に闘いとられた。それは、瀕死的脱落以降闘い内部に侵入する

アハシの同盟者との交渉を経緯し、その地平の上に、現闘本部の共同作業、鉄塔防衛の日常闘争を老人行動隊を中心として担ふる、全国夫婦大行進で「内閣総理大臣

レムキ 全国鉄塔共有者の「内容記明垂送」を呼びかけるなど、不退転の闘いの準備をおこなうため、新たな仲間を加えて意気昂揚する反対同盟を中心とした現地の闘いの物質的成果

に他ならない。そしてまた、革命的左翼との結合を転換点として闘いとつてきた、杜共排農民運動の革命的発展を刻印する闘いの新たな飛躍をかちとるものとして新たな地平を築いたのである。それは同時に、日帝の侵略反革命——南朝鮮新殖民地主義支配の必死の遂行に対する「侵略戦争の野望」を直視した確実な反撃を闘いとするものとして闘われたのである。



鉄塔決戦勝利の決意も固く進撃せよ

「略反革命との対決」として鮮明にしなければならない。この闘いをインペイし、歪曲、清算せんとする輩との党派闘争に勝利することは不可欠である。闘いの内部に侵入し、内部から腐敗をもたらす右翼日和見主義諸潮流を粉碎せよ！四トロを筆頭とする右翼日和見主義は、この間三里塚闘争の革命的発展をおしとどめ、何とかブルジョア民主主義的要求闘争に引きずり込まんとする新たな装をこらし

以降、9月17、18日行なわれた米海兵隊の喜瀬武原における実弾砲撃演習を頂点として日米帝の攻撃はさらに激烈化している。すなわち、演習阻止闘争に決起した沖縄人民に対する刑特法適用攻撃による徹底した弾圧である。日米帝は何がなんでも実弾演習を強行するため、米軍および防衛施設庁、沖縄「県警、司法、検察を総動員している。今回（9月）の実弾演習は、前回（7月）の一〇五ミリと異なり、一五五ミリりゆう弾砲撃演習を目的としたものであつた。すなわち、一五五ミリりゆう弾砲は、"核弾頭"を使用できる"原子砲"であり、まさしく、核戦争遂行に向けた日米帝の重大な決意を露骨にしたものなのである。米軍は、このよくな9月17、18日の実弾演習が阻止されるや否や、海兵隊六〇〇人を南朝鮮に派遣し、9月25日から10月23日までの一ヶ月間にわたつて実弾演習を強行しているのであり、彼らにとって実弾演習

読者諸君！戦後マルタリジュネーブ体制の歴史的崩壊へと迫ついた民族解放社会主義勢力と、帝国主義・社会帝国主義との激突の環はインドシナから朝鮮に波及し、日米帝の朝鮮侵略反革命遂行体制の急速な再編強化が、ソ連社会帝国主義の「朝鮮クロス承認」策動を頂点とする「アジア集団安保構想」を掲げた武装反革命に補完されつつ、沖縄を要とした進められている。これは、この間の日米帝の板門店事件を見れば明らかである。事件発生後、嘉手納基地から米空軍の在韓米軍基地への増派が行なわれた。文字どおり、沖縄が朝鮮侵略反革命の最前線基地として臨戦体制にあることを鮮明にしたのである。

# 朝鮮侵略反革命策動粉碎す 國際主義かけ 実弾演習阻止に決起

# 沖繩

立せよ」として社共排外主義政権構想に屈服追従する本性を明らかにし、また「三里塚空港廃港要求」なるものを引っさげた新たな抬頭がそれである。彼らは、三里塚闘争が、「土地を守れ」から「ペトナムに飛行機を飛ばすな」「反権力から権力打倒へ」としてその非妥協不屈の血と汗の闘いを通して築きあげてきた闘いの一切を歪曲し、空港としての立地条件や、開港条件の不備、空港としての非合理性等々に問題を切り縮め、結論として廃港を要求するという徹底したブルジョア的要求に三里塚闘争を歪曲し「武装蜂起とプロ

我々はこのようなく社共排外主義政権構想で  
ならぬじように「おしとどめるところ、三里  
塚闘争からの逃亡と、内部から腐敗せんと  
するのである。

我々はこのような社共排外主義政権構想に屈服合流する右翼日和見主義を必ず粉砕し、

屈服合流する右翼・日和見主義を必ず粉碎し、「武装蜂起とプロ独を組織する中央集権非合法党建設」のもと三里塚闘争の革命的発展を

全ての同志友人諸君、  
10・3 戦争の勝利的地平を固め、鉄塔決  
戦勝利、三里塚戦争完全勝利へ向けて闘いに  
総進撃を闘いとれ！

# 反革命策動粉碎す 義かけ 首阻止に決起

わち、77年5月の基地使用契約の期限切れを目前として、朝鮮侵略反革命前線基地のさらなる強化のために、従来の「暫定的」なものから永久的な基地確保をねらったものとして国会上呈を急ぎに急いでいるのである。この「新公用地法」は、基地への土地提供を拒否する反戦地主の土地を強制収用するものであり、反戦地主会への執拗な切りくずし攻撃と一体のものとして準備されているのである。復帰時における軍用地代の六倍引き上げ、さらにはその後も地代の引き上げによる懷柔政策が行なわれつつ、反戦地主への一方的返還通告などのいやがらせが行なわれている。

以上のように、沖縄をめぐる情勢は、8月板門店事件―9月喜瀬武原攻防として明らかにされたように、7月8日日米安保協、防衛協力委設置による防衛分担の明確化、共同作戦司令部設置を経て、一層露骨な朝鮮出撃体制が築かれようとしている。そして、この戦争遂行体制は、議会制民主主義や「平和憲法」をことごとくかなげり捨てた警察的官僚的独裁によって支えられているのである。

ここにおいて、我々がはつきりと確認しておかなければならぬのは、これら一連の日本帝の反基地闘争への弾圧の飛躍的強化が、朝鮮人民との歴史的結合の萌芽への抹殺攻撃であるという点である。9月17日の喜瀬武原連から直接の連帯のアピールが寄せられ、さらに、阻止闘争が朝鮮労働党機関紙において大きく取り上げられているように、朝鮮人民の南北統一に向けた闘いとの固い連帯へと発展しつつあるし、また我々は、小ブル平和主義的な「反戦反基地闘争」として固定化する策動をのりこえて、断固としてその方向へと闘いの発展を牽引していかねばならないのである。まさに、このような闘いの国際主義的発展に対する圧殺攻撃として、権力の徹底した弾圧が打ちおろされているのである。とりわけ、65年日韓条約締結以降、南朝鮮新植民地主義支配の全面的強化を唯一の延命の道とする日本帝国主義にとって、朝鮮半島は生命線ともいべきものであり、日本階級闘争と朝鮮人民の闘いの結合こそ、帝国主義は最も恐怖している。したがって、日米帝国主義にとって、とりわけ前線基地における沖縄階級闘争を、朝鮮人民の闘いと分断し、侵略反革命へと加担させることに全運命がかかっている。それ故にこそ、昨年皇太子沖縄上陸時に見られる天皇制―天皇制イデオロギーをもつてする組織破防法的弾圧、そして実弾演習阻止団への刑特法適用といふ、復帰前の米軍政にとつて代わる警察的官僚的独裁支配の一挙的強化がなされているのである。

まさしく72年「返還」以来、数度にわたる天皇沖縄上陸策動、そして75年皇太子沖縄上陸を通じて警察の治安警察化を強化し、同時に、司法、検察の「東京直轄化」ともいふべ

き人事再編、機能強化を行なっている。このような統治機構の強化をテコとして、日本帝國主義を前面に登場させた急速な基地社会としての再編がなされている。すなわち、全軍の大量解雇（一方において、厳しい思想チェックを行なっての新規採用も行なわれている）による組織破壊攻撃、軍事燃料基地IICTSの設置認可、B52戦略爆撃機の5月、7月の2度にわたる飛来、6月23日（沖縄戦終結の日で、「反戦平和の誓いの日となつていて」）の自衛隊の深夜行軍と摩文仁ヶ丘占拠、そして、海洋博を通じた農漁業破壊と農漁民の「本土」へのたたき出しによる基地依存経済体制化の遂行等々として相次ぐ攻撃がかけられている。しかし、これに対し、74年海洋博現地闘争、75・76年皇太子沖縄上陸阻止闘争を突破口に、喜瀬武原闘争の階級的高揚として、反撃が開始されているのである。

このような日米帝国主義の攻撃に對する我々の任務はもはや明白である。すなわち、朝鮮半島をめぐる攻防の一点へと煮つまりゆく国際階級闘争の最前線において、敢然と南朝鮮新植民地主義支配粉砕／沖縄侵略反革命前線基地粉碎／安保粉碎／日帝打倒／沖縄解放／のスローガンの下に武装せる隊列を打ち固めることである。そしてそのうえに立つて、民族解放社会主義勢力との大胆な結合を勝ち取ることである。

そして、基地強化のための警察的官僚的独裁支配の一挙的強化をねらつた皇太子沖縄上陸を弾圧として決死糾弾したひめゆり、白銀4戦士に対する一年有余の長期拘留、実質実刑攻撃、高額保釈金攻撃を打ち破り、4戦士即時奪還／ひめゆり、白銀公判闘争勝利／の闘いを全戦線に押し広げなければならない。また、11・10天皇50年式典粉碎闘争を、沖縄天皇制を前面に押し立てた統治形態の再編強化との闘争を押し進め、70年代後期権力闘争の新たな段階を切り拓かなければならない。

同時に、この闘いの前進は、あらゆる、社会排外主義、これへの右翼日和見主義の合流との徹底した闘争を抜きにしてはあり得ないし、それらを武装蜂起、プロ独へと組織する中央集権非合法党建設の事業ぬきにはありえない。社帝潮流II日本共産党は、「反米統一戦線」の下に日帝を美化し、日帝の侵略を否定している。そして、人民の燃え上がる反安保、反基地闘争を、民主連合政府構想を掲げて庄殺している。すなわち、日本共産党の民主連合政府とは、「反米統一戦線」の名の下に、「反米ブルジョアジーとの連合」によって成立する政府に他ならず、実は彼らこそ朝鮮侵略を生命線とし、そのための沖縄前線基地を不可欠としているのである。したがって、「民主連合政府」によって安保―沖縄基地は決してなくならない。そして、この日本共産

政権構想革新自治体闘争は、結局日米安保同盟の補完物である。

さらに、日帝の警察的官僚的独裁支配の強化による組織破防法的弾圧と、「本土」排外主義労働運動の下への系列化の攻撃の進行している中において、沖縄階級闘争の持つ戦闘運動、経済闘争は、即、革命的政治闘争である。「沖縄人は少数民族だから、沖縄の連合運動、経済闘争は、即、革命的政治闘争である」という経済主義、組合主義の贅美に補完されているのである。

一方、急進民主主義派II中核派は、沖縄闘争を「朝鮮侵略粉碎闘争の一環」として位置づけつつも、「反帝反スターリニストII反革命」による「朝鮮労働党IIスターリニストII反革命」規定してしまひ、彼らの「朝鮮連帯」が全く空虚であることを露呈している。

すべての労働者人民諸君！民族解放社会主義勢力の前進と結合し、日帝の朝鮮侵略反革命を内戦に転化すべく、反帝戦線（全国委）と共に沖縄侵略反革命前線基地粉碎闘争への大進撃を開始せよ！

## スケジュール

10・18	三里塚鉄塔決戦勝利関西集会 あいさつ・三里塚反対同盟
6じ・10	中之島公会堂
10・18	10・9 加納一派完全打倒公判
10・9	千葉地裁
10・21	朝鮮侵略反革命粉碎
10・28	狭山最高裁決戦勝利
10・31	天皇五十年式典粉碎 中央総決起闘争 6じ・宮下公園
11・2	姫百合・白銀公判 那覇地裁
11・9	姫百合・白銀公判 明治公園
11・10	天皇五十年式典粉碎中央闘争 那覇地裁

全ての労働者・学生・市民諸君！  
**「烽火」読者諸君！**

昨年10・9 加納一派完全打倒闘争から一年を経過した。我が同盟（全国委）党内分派闘争から逃亡し、右翼日和見主義者の革マル主義への水先案内人として政治的延命の一切をかける反革命集団へと転落した反革命革マル主義者Ⅱ加納一派により権力へ売り渡された今村、南波、城戸同志の獄中闘争も又、すでに一年を経過した。

10・9、加納一派は首都闘会議を索知しての我が部隊による完全打倒闘争の前に、逃げまどい、挙くに、加納英二自らの手によって権力に通報し、人相、着衣まで指定して権力と文字通り一致協力して、我が同盟に対する攻撃を行なった。加納一派は、今村、南波、城戸三同志に対する面通しまで行ない、三同志を獄中へ送りこむ事によつて延命しているのである。そして破廉恥にも、裁判に於いて加納英二の妻である久松友子を、加納一派の手先として、検事側証人として送り込んだのであるが、我々の断固とした反撃によつて、それが粉碎されるや、今度は、空涙を裁判長の前で流し、三同志に重罰を要求し、身の安全を要求するという猿芝居まで演じてみせたのである。しかし、我々はこうした裁判所・検事・加納一派による「殺人罪」デッチ上げ策動を事ごとく、粉碎しており、同時に加納一派に対する完全打倒闘争を増々、確実に前進させていく事を明らかにしておきたい。

そして、この闘いは、同時に獄中での三同志の闘いⅡ監獄支配に対する持続した闘いとしても行なわれている事を明らかにしなければならない。三同志は、①所内発信の無料化等の改善要求、②医療体制の改善、③懲罰の禁止、④「刑法改『正』」「監獄法『正』」粉碎をかけて獄中闘争を貫徹しており、9月17日、法務省の小つ葉役人米田某の巡閲に対してハンスト闘争をもつて抗議し、闘かいを貫徹したのである。

こうした獄外一獄中の断固たる闘いの継続は、裁判所・検事・刑務所当局を恐怖させ、烽火三〇五号で報告したように、無理矢理に

## 朝鮮侵略反革命粉碎！ 革命的政治行動に決起せよ！

今村同志

## 獄中三同志の10・8闘争アピール

今秋期「天皇五〇年式典粉碎、狹山最高裁

決戦勝利、三里塚鉄塔決戦勝利」の攻防戦を、日帝の朝鮮侵略反革命戦争遂行体制粉碎の一

点に凝縮させ、全力量を傾注して徹頭徹尾戦

い抜くために結集された戦闘的同志達。ここ

に獄中よりアピールを送り、歴史的十・八闘

争の共同の意志を確認したい。

輝かしい国際共産主義運動の伝統がスター

リニ主義・社会帝国主義によつて奪われてか

ら久しい年月を経ながらも、今日の国際階級

闘争のすう勢は、共産主義革命が決して歴史

の一エピソードとして終りはしなかつたこと

を明らかに示している。遙かアフリカの地に

於いて、アラブで、ラテンアメリカで、何よ

りもアジアに於いて民族解放・社会主義勢力は幾多の困難を乗り越えて日毎に前進をとげ

又、それと相呼応して、帝国主義心臓部、日

帝心臓部において侵略反革命を国内戦に転化

すべき新たなうねりが、徐々にではあれ、し

っかりと開始されている。かかる現実は、共

産主義革命の理論たるマルクス・レーニン主

義の科学的正当性を、革命的プロレタリアー

トの前に少しの疑点もなく証明している。だ

からこそ、ブルジョアジーは、マルクス・レ

ーニンを「聖像」にとつてかえ、「ひざまず

くことによつて反抗する」ブルジョアジーの

政治的分遣隊たる日和見主義を育成し、革命

党の隊列に潜入させ、もつて革命を押しつぶ

# 10・9加納一派完全打倒闘争の地平うけつけ

**■権力・加納一派による殺人罪デッチあげ粉碎！  
■長期拘留Ⅱ実質的実刑攻撃粉碎！  
■今村同志に対する肉体抹殺攻撃粉碎！**

全ての労働者・学生・市民諸君！

「烽火」読者諸君！

こじつけた「お礼まいり禁止」条項を適用しての保釈却下攻撃をかけて来ており、実質的な実刑攻撃として不当長期勾留を行なつてき

ており、又、獄中に於いては、刑務所当局は、

三同志の闘いの報復として、懲罰をくり返し、

今村同志を病舎にたたきこみ、一切の医療処置をおさなりにして放置し、まさしく、肉体的、精神的抹殺攻撃をしかけているのである。

今村同志はあの独房での座りづめによつて、腰を悪くし、すでに座る事さえ不可能になつており、微熱がつづいているにもかかわらず、

専問医による治療の要求に対しても拒否し、病舎に移して、他の二同志からく離し日毎に衰弱する今村同志を放置しているのである。

そして、今村同志を先頭に南波、城戸同志による断固たる抗議によつて、やつと千葉大整形外科の御用医者に形どおり、おさなりの診察をうけさせ、「脊椎突起過敏症」「結核の初期」という診断を出させたのみで、専問的治療を行なわず、肉体的消耗をはかつていいるのである。

全ての同志・友人の皆さん！

我が同盟（全国委）の下に結集し、長期不

当拘留粉碎！実質的実刑攻撃粉碎！三同志

即時奪還の闘いに決起する事を要請する。

加納一派完全打倒闘争を更に前に前進させ

「殺人罪」デッチ上げを粉碎せよ！

刑務所当局は医療体制を改善し、専問医による治療を行なえ！

千葉地裁は三同志を即時釈放せよ！

こうした刑務所当局・裁判所の実質的実刑攻撃・肉体抹殺攻撃に対し、獄中一獄外の断固たる反撃を更に進めなければならない。

三同志即時奪還を勝ち取らなければならぬ。

そしてこの事は一切の加納一派・検察・裁判所一体となつた「殺人罪」デッチ上げ攻撃を

ことごとく粉碎しきり、裁判闘争に勝利する事と同時的闘いとして貫徹されなければならず、加納一派完全打倒闘争の更なる進撃をもつて爆碎しなければならない。

さんとするのだ。だから同志達、解党主義が日和見主義へと、そして日和見主義は更に社会排外主義へと転化することは決して偶然の事ではないのだ。現在、米帝とソ連社帝は、結託と抗争をくりひろげつつ、その反革命世界支配革命の共通の根幹を、民族解放――社会主義勢力の党、なかんずく、中国共産党への集中砲火に与えている。しかし、長期にわたる抗日戦・国内戦をもつて半封建、半殖民地中国における「新民主主義革命」を戦いとり、同時に五十年代後半より、本格的な社会主義革命期に突入し、それを首尾一貫、領導して来た中国共产党は、今、革命第一世代の相つぐ死を乗り越えて、引き続き社会帝国主義の国際共産主義運動反革命支配に敢然と闘い、又、文化大革命の成果を守り、「プロレタリア独裁下の継続革命」をもつて、自らロシア十月社会主义革命の世界史的継承の位置を築かんと、一步もひるむことなく、必死の苦闘をくりひろげている。

階級闘争の白熱の攻防の中で、自らを打ち鍛え戦取された。国際共産主義運動のスターリン主義—社会帝国主義支配、それに屈服した解党主義分派たる反スタトロッキズムと断固闘い、決別し、万国のプロレタリアート、被抑圧民族の最高の団結の組織である世界党建設を通して、帝国主義と社会帝国主義の全世界的掃討戦を世界プロレタリア独裁を共産主義革命の最後の勝利を克ちとることをかって12・18路線は宣言したことを想起しよう。わが党建設はここにおいてこそ始まつた。それは同時に、日本に於ける確固たる單一党形成をめぐつて、そして武装蜂起とプロレタリア独裁を組織する中央集権非合法党建設の中に日本革命の理論と実践の一切を対象化すべき一步も引き下がることができない日和見主義との路線闘争の事実上の開始に他ならなかつた。

今春期、かの反革命革マル主義者＝加納一派を水先案内人とした右翼日和見主義の一群が社会排外主義政権構想への実際上の大合流をとげる中、浮動と混迷を深める急進主義を後陣に残し、着実に加納一派完全打倒闘争の勝利的地位を戦取しきつた同志達。だが、それは日共（社帝）との全面的党派闘争、それと固く結合された日和見主義との今まで以上に仮借ない路線闘争宣言以外ではないことを今一度確認しよう。レーニン主義は、一貫し

# 地下水道 臨時号

□ 75・5・11 加納一派完全打倒——凶準デツチ上げ公判闘争  
□ 75・9・30 天皇訪米実力阻止公判闘争  
□ 75・10・9 加納一派完全打倒——殺人未遂デツチ上げ公判闘争

## 地下水道編集委員會

¥ 300

10・8闘争に結集し、断固として闘いを貫徹せんとしておられる全ての同志友人の皆さん。敵日帝権力—反革命集團加納一派に依るが同盟、そして私達三名への「殺人未遂」デッチ上げ、長期未決拘留攻撃の開始以降、まもなく一年が経過せんとしています。

その間我が同盟は、加納一派完全打倒闘争の貫徹から反革命集團加納一派の紅旗派結成へと至る分派闘争の勝利を闘い取り、更に総路線の鮮明化、機關紙「烽火」の復刊という着実な同盟再建—中央集権非合法党建設の前進を闘い取つて来ました。それに引き替え反革命集團加納一派—紅旗は革命的政治闘争から全面的に逃亡し、右翼日和見主潮流をする野合集團へと増え純化しています。この様な反革命集團加納一派は、自己の社会的階級的任務を、日本帝国主義の野望の露骨な贊同と、革命的プロレタリアートの闘いへの敵対に求めている以上、我々は、この様な反革命集團との断固たる党派闘争に勝利し、完全打倒を実現していかなければなりません。全ての同志、友人の皆さん。我々は、同盟建設の同志、友人の皆さん。我々は、同盟建設—中央集権非合法党建設の前進を要とし、我が同盟とその路線の下への革命的プロレタリ大衆の結集を闘い取り、国際主義的政治的決起の大爆発を組織し、右翼日和見主義—社会排外主義の打倒と、蜂起—プロ独—共産主義の勝利を闘い取ろうではありませんか。

全ての同志、友人の皆さん、現下の我々の任務は鮮明です。帝國主義の侵略反革命、社會帝國主義の武装反革命を粉碎せよ、帝國主義打倒、社會帝國主義打倒、國際階級闘争—國際党派闘争の烈火の中で、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界單一党を建設せよ、全ての同志、友人の皆さん。革命的プロレタリアートの戦列を一層強化しよう。日米帝の板門店侵略反革命戦争挑発弾刻、日米帝の朝鮮侵略反革命を内戦に転化せよ、安保粉碎、勝利！天皇五〇年式典粉碎、武装蜂起—プロ独の勝利へ向け前進を闘い取ろう。

全ての同志友人の皆さん。10・8闘争を断固貫徹し、自らを同盟再建—中央集権非合法党建設に組織し、自らの組織力、武装力で共産主義革命の勝利をその掌中に闘い取ろう！ハンスト闘争への懲罰策動粉碎、待遇改善闘争勝利！

殺人未遂デツチあげを粉碎せよ！

卷之三

会排外主義の打倒と、蜂起―プロ独立・共産主義の勝利を闘い取ろうではありませんか。

10・8闘争に結集し、断固として闘いを貫めんとしておられる全ての同志友人の皆さへ。敵日帝権力一反革命集団加納一派に依る我が同盟、そして私達三名への「殺人未遂」。ハッチ上げ、長期未決勾留攻撃の開始以降、もなく一年が経過せしもござります。

その間、我が同盟は、加納一派完全打倒闘争貫徹から反革命集団＝加納一派の紅旗派結

着実な同盟再建—中央集権非合法党建設の路線の鮮明化、機関紙「烽火」の復刊といふへと至る分派闘争の勝利を圖り取り、更に

進を闘い取つて來ました。それに引き替え  
革命集団加納一派—紅旗は革命的政治闘争  
ら全面的に逃亡し、右翼日和見主潮流を社

排外主義へ転化する事に自己の延命の道をめ、その様な転化を全面的に「援助・支援する野合集団へと曾々純化してへます。この

な反革命集団加納一派は、自己の社会的階級的任務を、日本帝国主義の野望の露骨な贊成、革命的プロレタリアへの開拓につな

革命的プロレタリアートの闘争への敵に求めていはる以上、我々は、この様な反革命團との断固たる党派闘争に勝利し、完全

中央集権非合法党建設の前進を要とし、我  
の同志、友人の皆さん。我々は、同盟建設  
を実現していかなければなりません。全

同盟とその路線の下への革命的プロレタリア大衆の結集を闘い取り、国際主義的政治的大起の大爆発を組織し、右翼日和見主義一社

卷之三

號時歸

派完全打倒——凶準デツ

ミ実力阻止公判闘争  
派完全打倒——殺人未遂デツ

権力中枢の監獄支配との闘争である。権力の組織破防法的弾圧は、ブルジョア裁判に対する闘争が監獄支配に対する闘争と結合されないかぎりもはや空論にすぎないことを教えた

し、日和見主義との路線闘争を常に忘れず、党と革命を鋼鉄の如く武装するために更にわれわれは前進を続けます。

国家権力の鉄鎖たる男子の特権支配と闘い、  
党と革命の隊伍を強靱に編みあげよう。鉄の

支配には、鋼鉄の意志をもつて。

命粉碎＝革命的政治行動の最前線へ！

100

1976年10月15日

# 五日間のハンストをたたかいぬく

城戸 同志

10・8羽田闘争九周年朝鮮侵略反革命粉碎  
闘争に結集された革命的労働者、学生、市民の皆さんに獄中より熱い友情と連帯のあいさつを行います。

最初に、国家権力法務省と千葉刑務所の暴力的弾圧攻撃に対し、五日間にわたってハント闘争を貫徹したことをまず報告します。権力の我々闘う者に対する弾圧攻撃は、日々、増々、露骨な形で表われています。我々は、特に獄中にあっては闘うことによってのみ、自らの生命を維持出来ることを誰よりも身をもつてよく知っているし、敵の「アメ政策」「ワナ策動」をも、階級的警戒心でもつて看破し、逆に攻撃に打つて出なければならぬ。今回のハンスト闘争は、権力との真向からの対決であり、南波、今村両同志の連帯のhaust、抗議行動と強く固く結びつき、今後一層の団結でもつて獄中闘争を貫徹すると共に、中央集権非合法党建設一同盟再建の新たな段階に突入した今日、獄外との更なる密接を結びつきでもって、日本階級闘争の最前線において闘い抜く事をここに再度宣言します。

法務省の小つ葉役人米田某は、我々の当然の権利としての、現在刑務所で行なわれている非人間的制度等に対する抗議、闘いに対し、何ら答えることなく、一切の問われている問題を棚上げし、ブルジョア法の枠内に於てさえ、我々闘う者の権利を略奪したのである。本養の不足、運動の不足、差別待遇、全くデータラメな医療制度そして、「刑法改『正』」「監獄法改『正』」として、その弾圧体制の完成に奔走しているのである。房内に於て歩くことさえ認めず、話すことはもちろん、独言も懲罰になると言う、まさしく、現在の独房は精神的、肉体的破壊を目論む権力により計算された拷問房としてある。これらの弾圧攻撃に対する獄中に於ける我々の戦闘的闘いは、全く孤立する事なく、日増しに多くの獄中者に拡がっているのである。これに恐れ、おののいた刑務所当局は、所長を筆頭に、部長課長、課長補佐、係長連中が、連日房を訪れ「懷柔、説得」を繰り返すのであるが、我々は、これらを断固はねのけ闘い抜いたのは当然のことである。

さて、我々は、七三年八月以来の党内分派闘争をレーニン党―中央集権非合法党建設として正しく路線闘争として把握し、昨春この党建設のし烈な事業から最終的に逃亡し、反革命革マル主義へと転落した加納「紅旗」一派の完全打倒闘争を更に押し進めなければならぬ。それはとりもなおさず、一切の社会排外主義、右翼日和見主義との全面的闘争と

して位置付け、これらとの全国政治闘争のみならず、あらゆる諸戦線、諸運動から一掃し尽くさなければならぬものとして、今日、我々革命的プロレタリアートに課せられていく。

帝国主義者共は、これら社会排外主義、右翼日和見主義の育成に全力をあげ、一方、我同盟を先頭とする革命的左翼に対し徹底した組織破壊攻撃を押し進め、官僚的警察的独裁支配の一層の打ち固めを策謀している。

「全世界的規模での資本主義から社会主義への現実的移行」の今日、帝国主義の危機の進行の中で、日帝は自らの延命として唯一残された道としての南朝鮮新植民地主義支配と沖縄侵略反革命前線基地の強化を通じた、日米安保の攻撃的再編強化、日米韓共同軍事演習を通した本格的なアジア侵略反革命戦争準備を進めているのである。

本年七・八日米安保協開催―日米防衛協力委設置、「板門店戦争排発」等を契機に、この間一挙的に反革命体制の確立を遂行せんとしているのである。

我々の任務は今や鮮明である。

◎帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉砕し、世界革命戦争―世界プロ独を組織する世界單一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

◎民族解放―社会主義勢力の前進と結合し、日帝の侵略反革命を内戦へ転化せよ！

◎革命的労働者人民は共産同全国委員会に結集し、プロの武装蜂起―プロ独を組織する中央集権非合法党を戦取せよ！  
のスローガンの下、より一層の党派闘争を推進し、今秋闘争を右翼日和見主義との総対決として位置付け、狭山最高裁決戦勝利！三里塚鐵塔決戦勝利！11・10天皇五〇年式典粉碎ノの闘いを我全国委の旗の下、一丸となつて進撃しよう！共に闘かわん！

千葉刑務所 城戸十三吉